

■関一 大阪市助役に招かれると、学者の道を捨て、市長になって市政の黄金時代を現出、現職のまま没した。

せきはじめ

明治6年政変 1873 = 西伊豆の港町で私塾を開いた関近義の長男に生まれる。

西南戦争・ 1877 = 4歳：子どもの教育のためと、東京女子師範学校の教職を得た父に従い、一家で東京四谷に移住。

明治14年政変 1881 = 8歳：

新体詩抄・ 1882 = 9歳：

東京商業学校付属商工徒弟講習所別科に入学し、

帝国憲法発布 1889 = 16歳：

帝国議会始・ 1890 = 17歳：東京商業学校本科に進学するが、父が急逝し、以後、教師となった母に支えられて、勉学に励み、

大津事件・ 1891 = 18歳：

大本教・ 1892 = 19歳：

郡司千島探検 1893 = 20歳：

日清戦争始・ 1894 = 21歳：

白馬会・ 1896 = 23歳：

八幡製鉄始・ 1897 = 24歳：

子規句歌革新 1898 = 25歳：

Bushidou・ 1899 = 26歳：

ピアノ国産化・ 1900 = 27歳：

田中正造直訴 1901 = 28歳：

教科書疑獄・ 1902 = 29歳：

日比谷公園・ 1903 = 30歳：

日露戦争始・ 1904 = 31歳：

日露戦争終・ 1905 = 32歳：

満鉄発足・ 1906 = 33歳：

アヲヲ 創刊・ 1908 = 35歳：

伊藤博文暗殺 1909 = 36歳：

韓国併合・ 1910 = 37歳：

大逆事件判決 1911 = 38歳：

明治天皇没・ 1912 = 39歳：

大正政変・ 1913 = 40歳：

第一次大戦始 1914 = 41歳：

本格政党内閣 1918 = 45歳：

ペルシヤ条約・ 1919 = 46歳：

原敬首相暗殺 1921 = 48歳：

関東大震災・ 1923 = 50歳：

護憲三派圧勝 1924 = 51歳：

治安維持法・ 1925 = 52歳：

円本時代始・ 1926 = 53歳：

金融恐慌・ 1927 = 54歳：

世界恐慌・ 1929 = 56歳：

海軍軍縮条約 1930 = 57歳：

満州事変・ 1931 = 58歳：

五一五事件・ 1932 = 59歳：

国際連盟脱退 1933 = 60歳：

帝人疑獄事件 1934 = 61歳：

芥川直木賞始 1935 = 62歳：

矢野校長の独裁的経営に反撥し、学友らと辞職要求運動をするが、才能を見込んで既に採用を内定していた渋沢栄一の働きでか、一人放校処分から免れた上、総代となって、卒業。大蔵省銀行課に就職するも、すぐに官僚勤めに退屈し、神戸商業学校の教諭となり、新潟市立商業学校校長に任命されるも束の間、母校東京高等商業学校の教師に迎えられ、以後、生涯にわたり矢野の後任校長小山健三の恩顧を受ける。添田寿一からの推薦文を得て、処女作「商業経済大意」を出版すると、派遣されて、ヨーロッパに留学、ベルギーの鉄道学校で研修を開始するが、政府に出願して、ベルリン大学に移り、当時世界的に有名になっていた政治経済学者ワグナー・社会学者ジンメルに学ぶ一方、パリでの高等商業学校万国会議に学校代表として出席、フランス語で報告した上、日本での商業大学設立を求めるベルリン趣意書を共同執筆、別にパリ万博を見学してショックを受けたほか、クルップの模範的労働者共同体など、あちこちを旅して見聞を広め、さらに、アメリカに渡り、大都市見学、大陸横断をして、ようやく帰国。直ちに授業を再開する一方、ともに一ツ橋の三羽烏と呼ばれた福田徳三・佐野善作と研究グループ{ベルリン会}を結成、千葉県成田の高名な元侍の娘大塚げんと結婚。「商業経済政策」を執筆。弟義一が日露戦争に出征。福田とともに、{国民経済雑誌}を創刊。商科大学認可に向け、国会審議で趣旨説明するなど、運動の先頭に立つ。この年の日本社会政策学会年次大会で、初めて、都市問題に触れ、とくに都市交通の重要性を指摘。既に、友愛会評議員であったが、この年の「商工政策綱領」、3年かけた画期的著作「労働者保護法論」、以後、3年かける「工業政策」2巻によって、学問上の関心を労使関係に移して行く。河上肇とマルクス主義論争し、自己の考え方を強化、文部省が東京高商を東京帝国大学の経済学部に取り込むようしてきたのに対し、反撃の最前線に立つが、*大阪の新市長池上四郎に求められ、小山の仲介もあって、市の助役就任、ジャーナリズムの話題になる。市内を隈なく回って調査し、資本家階級を手厳しく批判するなどするうち、(第一次大戦バブル後の)*不況が深刻化するなか、「救済問題」と「社会問題」の根本的違いを示し、社会改良に向けて、行動を開始。国の都市計画調査委員会に大阪代表として出席、大阪市都市計画を提案、「住宅政策」が国の直面する火急の課題と宣言、市営住宅建設も始まる。原敬首相が署名した大阪の第一次都市計画では、ほとんどが削られて矮小化され、幻滅が始まるが、「住宅問題と都市計画」。***市長に任命されて、トップの権限を得るや、**長年の戦いの未成功した大阪電燈電力の市有化で得た力を背景に、一気にことを進め、正式に、**大大阪が実現、**労働者階級のための区画整理による田園郊外住宅地も実現、以後の開発モデルとなる。この年までに、様々なタイプの21箇所の公共住宅開発を行うが、それ以上の都市成長で、不快な現実にも悩まされ、妻が死去。大阪初の地下鉄御堂筋線が完成したが、未曾有の室戸台風による大洪水に見舞われ、大都市建設に向けて市民に立ち直る呼びかけのうち、***腸チフスに罹り、急逝した。**